

いさま 伊参スタジオ映画祭

シナリオ大賞



あなたただけの映画を、書いて、創るんだ。

映画化を前提とした中編・短編シナリオ募集

中編の部
賞金

100万円

1ページ30字 ×
30行で16枚以上
25枚以内。上映時
間30分～60分程度

短編の部
賞金

50万円

1ページ30字 ×
30行で10枚以内。
上映時間10分～
20分程度

中編・短編それぞれで大賞作品に選ばれた作品の映画化に際し、撮影時の宿泊やロケハンなどを映画祭実行委員会がサポート。伊参スタジオ映画祭での上映の後、賞金を贈呈します。

賞金・映画化支援

全国から映画
シナリオを募集

1次・2次・
3次審査

映画祭にて
大賞作品を発表

大賞作品
を映画化

翌年の映画祭
で初上映

群馬県中之条町で開催されている伊参（いさま）スタジオ映画祭では、若手映像作家に作品制作を働きかけ、その発表の場を提供する、映画化を前提とした中編・短編シナリオを募集します。

シナリオ大賞とは？

活躍する歴代受賞者

シナリオ大賞の歴代受賞者には、『ポエトリーエンジェル』飯塚俊光監督や、『ちよき』金井純一監督、『燦燦』外山文治監督など、その後商業映画に進出した監督もいます。今年、室岡ヨシミコ監督はドラマ「100万円の女たち」に、松井香奈監督は『紅い襷』富岡製糸場物語に脚本家として参加します。また、昨年伊参で上映の澤田サンダー監督『ひかりのたび』も今年、東京で上映予定です。

審査員について

シナリオを審査するのは、伊参スタジオ映画祭誕生のきっかけとなった『月とキャベツ』の篠原哲雄監督、『眠る男』の松岡周作プロデューサーをはじめ、『森山中教習所』の豊島圭介監督、シナリオ・センター講師の坂井昌三氏、脚本家として映画・ドラマを多数手がける龍居由佳里氏など、第一線で活躍する方々です。



伊参スタジオ映画祭

応募締切2017年6月20日(火) ※当日消印有効

詳しくは裏面・伊参スタジオ映画祭公式HPでご確認下さい <http://www.isama-cinema.jp/>

応募宛先・問い合わせ先

〒377-0494 群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町 1091 (中之条町役場内)
伊参スタジオ映画祭実行委員会事務局 TEL 0279-75-8802 FAX 0279-75-6562



芸術文化振興基金助成事業

いさま 伊参スタジオ映画祭 シナリオ大賞

1 募集内容

映画化を前提とした「中編」、「短編」シナリオを募集します。(※1) 最優秀シナリオ「シナリオ大賞」に対し、「中編の部」に100万円、「短編の部」に50万円を、作品映画化後にそれぞれ贈呈します。大賞受賞者は、その作品を映画化(メインの撮影場所を中之条町で行うこと)し、2018年秋開催予定の「第18回伊参スタジオ映画祭」で初公開することが求められます。

大賞受賞者が作品を映画化するにあたり、製作拠点(ロケハン等含む)として伊参スタジオを利用する場合、使用料を免除されるほか、作品製作への協力や、必要な情報提供を受けられます。

2 応募方法

<http://www.isama-cinema.jp/clipmail/clipmail.html> の応募フォームより、①応募部門(「中編」の部/「短編」の部) ②タイトル ③住所(郵便番号、都道府県名も明記) ④氏名 ⑤年齢 ⑥電話番号(自宅・携帯) ⑦メールアドレス(PC・携帯) ⑧原稿枚数を入力の上、データ化した原稿(表紙・あらすじ・登場人物表・本文を全てまとめたデータ)を添付して送信してください。その後、「3 応募規定」の通りに用紙でご応募ください。 ※インターネット環境が整っていない方につきましては、用紙のみでの応募も可能です。

3 応募規定

- (1) 字数(日本語)は、
「中編」の部: 1ページ30字×30行で 16枚以上25枚以内
(作品の上映時間で概ね30分~60分程度)
「短編」の部: 1ページ30字×30行で 10枚以内
(作品の上映時間で概ね10分~20分程度)
【文字数規定を厳守してください】
- (2) 400字以内の「あらすじ」と「登場人物表」を添付してください。
- (3) シナリオ応募数は「中編」の部、「短編」の部、それぞれ1人1作品までとします。
- (4) 用紙はA4判で、左下の部分に通し番号を記入してください。また、表紙に ①応募部門(「中編」の部/「短編」の部) ②タイトル ③住所(郵便番号、都道府県名も明記) ④氏名 ⑤年齢 ⑥電話番号(自宅・携帯) ⑦メールアドレス(PC・携帯) ⑧原稿枚数 を記載してください。なお、A4判400字詰め原稿用紙(20字×20行)での応募も可能です。
※専用の応募用紙は公式HPからダウンロードできます。
- (5) 応募原稿は5部提出してください。
- (6) 原則として、「シナリオ応募者が作品製作にも携わること」が前提となりますので、このことを了承のうえ応募願います。
- (7) シナリオはオリジナル作品に限ります。

4 応募資格

プロ・アマチュアの一切を問いません。

5 募集期間

2017年4月20日(木)~2017年6月20日(火) ※当日消印有効

6 主催

伊参スタジオ映画祭実行委員会(共催:群馬県中之条町・上毛新聞社)

7 結果発表及び授賞式

- 1次審査
1次審査通過作品、100作品前後を8月上旬に「伊参スタジオ映画祭」公式ホームページ <http://www.isama-cinema.jp/> で発表。
- 2次審査
2次審査通過作品、40作品前後を9月中旬にホームページで発表。
- 3次審査
3次審査通過作品、10作品前後を10月下旬にホームページで発表。
- 最終審査結果発表及び授賞式
2017年11月25日(土)~26日(日)開催予定の「第17回伊参スタジオ映画祭」会場、シナリオ大賞(中編・短編 各1作品)、審査員奨励賞(5作品)、上毛新聞社賞(1作品)、伊参スタジオ映画祭スタッフ賞(1作品)を発表。併せて授賞式を行います。

8 賞

- ☆「中編」の部 シナリオ大賞 1作品
映画化された作品に対し100万円を贈呈
- ☆「短編」の部 シナリオ大賞 1作品
映画化された作品に対し50万円を贈呈
- * 賞金(中編の部100万円、短編の部50万円)については、映画祭で公開後に作品製作者または作品製作団体に支払われますが、これとは別に、映画化のための製作補助金(「中編」の部、「短編」の部ともに35万円まで)を利用できます。必要な場合は、受賞決定後主催者まで申し出てください。なお、この製作補助金は賞金受領時に主催者へ返金していただきます。
- * 映画化した作品は、映画祭開催日の10日前までに事務局へ提出して下さい。

9 審査員の顔ぶれ(順不同)



篠原 哲雄 (TETSUO SHINOHARA)

映画監督。1962年東京都生まれ。主な作品に、『草の上の仕事』『月とキャベツ』『洗濯機は俺にまかせろ』『はつ恋』『深呼吸の必要』『地下鉄に乗って』『山桜』『小川の辺』『起終点駅ターミナル』『花戦さ』が本年公開。来年は高校生の青春を描いた『プリンシパル』の上映を控える。



松岡 周作 (SHUSAKU MATSUOKA)

プロデューサー。1966年高知県生まれ。小栗康平監督『眠る男』の制作主任として伊参スタジオの発起に携わる。『月とキャベツ』『スリ』『sWinGmaN』『女学生の友』『JamFilms-けん玉-』『時をかける少女』『BUNGO-日本文学シネマ-』他。



豊島 圭介 (KEISUKE TOYOSHIMA)

映画監督。1971年浜松市生まれ。『張り込み』(篠原哲雄監督)で脚本家デビュー。TVシリーズ「怪談新耳袋」で監督デビュー。シャイカー所属。映画代表作に『ソフトボーイ』『裁判長!ここは懲役4年でどうすか』『花宵道中』『海のふた』『ヒーローマニア-生活-』『森山中教習所』などがある。



坂井 昌三 (SHOZO SAKAI)

シナリオ・センター講師。1944年札幌市生まれ。シナリオライターの養成とシナリオの普及に尽力した新井一に私淑。後、シナリオ・センターに学ぶ。シナリオのゼミナール、通信教育や大学の講師などを通してシナリオの普及活動を行っている。



龍居 由佳里 (YUKARI TATSUI)

脚本家。1958年東京都生まれ。テレビドラマ『星の金貨』『ピュア』『白い影』『愛なんていらねえよ、夏』『砂の器』『心の糸』『ストロベリーナイト』『ママとパパが生きる理由』他。映画『小さき勇者たち・カメラ』『ストロベリーナイト』『四月は君の嘘』。

10 その他

- (1) 受賞作品の使用については、主催者と受賞者で協議のうえ決定します。なお、映画化権は主催者に帰属します。また、受賞作品の映画化が不可能な場合、賞を取り消すことがあります。
- (2) 応募作品は返却しません。
- (3) 審査の結果、各賞にふさわしい作品がないと判断した場合その賞について該当無しとする場合があります。
- (4) 大賞受賞者には、海外映画祭への応募の支援をします。
- (5) シナリオ冊子のご案内
映画祭当日販売予定のシナリオ冊子2017(審査員講評と、3次審査通過作品のうち作者の承諾を得られたものを掲載)を郵送希望の方は、公式HPまたは、事務局までお問い合わせください。

(※1) 映画化するにあたり、メインの撮影場所を中之条町周辺で行うことを前提としていますが、シナリオ中の具体的な名称や建物、モチーフ等を中之条町と捉える必要はありません。